

活動案：2年国語① 「たんぽぽのちえ」

1. 課題と目標

想定される課題

「たんぽぽのちえ」ではタンポポについて知っていることを前提にその「ちえ」に焦点化しているが、日本で育っていない児童は、たんぽぽを日常生活で見たりそれで遊んだりする経験をしていない可能性がある。タンポポのイメージは事前に共有しておきたい。

また、たんぽぽの成長のように、時間とともに変化していくものを日本語で描写するという経験は乏しいと思われる。在籍での学習では中心となるところなので先行して指導しておくことで理科が深まると思われる。

【本時の目標】

- ・たんぽぽの成長の様子について、イメージを持つ
- ・タンポポの成長の様子を、日本語で表現してみる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・たんぽぽが成長していく順番をわかりやすく説明するために、教科書の挿絵を使用する。
- ・本時では成長過程、変化のみを扱うものとし、本文にある「たんぽぽのちえ」自体にはふれない。

3. 使用可能な教材・ワークシート

NHK for school 3年生理科「タンポポのそだち方」（インターネット）

たんぽぽの挿絵のカラーコピー

- ・日本の子どもは、幼い頃から道端のタンポポを見かけたり、遊んだり、絵本やアニメで見たりした経験がありますが、海外で育った子供たちも同じ経験をしているとは限りません。
- ・たんぽぽのじくが倒れてまた起き上がるところを、腕を使って表すなどの工夫をしています。子どもにも動作をさせるなどすると面白いですよ。
- ・並べ替えの活動のときはペアくらいで行います。このため、操作用の教材と黒板で示す教材の、大きさの違う2種類の挿絵のコピーを用意しています。

4. 展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1. 動画（2分26秒）を見る。		NHK for school 3年生理科「タンポポのそだち方」
5分	2. 教科書の挿絵をコピーしたものを使い、挿絵を並べかえる。	グループなどでやり取りをしながら、活動をさせるのが望ましい。 軸が倒れている挿絵は除いておく。 ▼母語でしか活動ができない児童の場合は母語を使ってもよい。	たんぽぽの絵（教科書の挿絵のカラーコピー）
3分	3. 「軸が倒れているたんぽぽの挿絵」が2の過程のどこに入れればよいかを考える。	2でのぞいておいた「軸が倒れているたんぽぽ」の挿絵を示す。	
7分	4. どこに入れたか、なぜそう考えたかを発表する。	△「～だからここだと思いました」という表現を使って答えるように促す。 ▼理由については単語レベルでもよしとする。母語の使用もあり。ただし、いずれの場合でも教師が理由表現を使って正しいモデルを示す。	

活動案：2年国語② 「かんさつ名人になろう」①

関連する教科単元：生活「おおきくなあれ わたしの やさい」他

1. 課題と目標

想定される課題

「観察」という言葉自体日常では使うことがないため、「観察をする」ということのイメージが持てない可能性がある。そのため、観察のポイントを知らない、また、観察文を書くときに使用される、形・手ざわり・色・大きさなどの言い方になじんでいないことが考えられる。

【本時の目標】

- ・観察したものを、聞き手に伝わるような言葉で表現することができる。
- ・観察の活動を通して、観察をするときの視点が持てるようにする。

2. 指導のポイント・留意点

観察の対象は自由でよいが、焦点化（「植物の葉」「やさい」）したほうがよい。

・「たんぼぼのちえ」に先行してこちらの活動を行うこともできます。そのときは、活動案②（本時）、①、③の順になるでしょう。

・「ツルツル」「ざらざら」などのオノマトペは、非母語話者にはとても難しいです。言葉だけの説明では、習得するのは難しいので、子どもに実際に体験させたうえでオノマトペを提示するようにするとよいと思います。

・活動案で取り上げた素材をそのまま使用することはありません。現地で調達できるもの、同様の活動ができる素材を自由に選んでください。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	<p>1. バナナとゴーヤを用意し、見てわかる「似ているところと違うところ」を自由に発表する。</p> <p>T:似ているところと違うところはどこですか</p> <p>C1:いろ、ちがう</p> <p>C2:どっちもおなじ。</p> <p>T:何が同じですか</p> <p>C2:大きい・・・</p> <p>T:大きさは同じですね。</p>	<p>▼「似ている」という表現が難しい児童には「同じ」でもよい。その場合、授業の最後にすべてが全く同じではないことを確認し、「似ている」を導入しておくとい。</p> <p>・児童に自由に発言させ、その中から出てきた「観察の視点(大きさ、色、形)」をとりあげ、板書する。</p>	ゴーヤ、バナナ
7分	<p>2. (子どもにゴーヤとバナナを渡す)さらに気づいたことを発表する。</p>	<p>同上</p> <p>挙がってくる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てざわり(板書は「さわると」) ・におい 	
8分	<p>3. ゴーヤかバナナのどちらかを選び、観察の視点に沿って発表する。</p> <p>「ゴーヤは、固いです」</p> <p>「ゴーヤの色は、緑です」</p> <p>「さわるとでこぼこです」</p> <p>「おおきさは筆箱くらいです」</p>	<p>全員が共通で理解できる基準を使うことが必要であることを理解させる。</p> <p>△正しい文型で、フルセンテンスで発表するように促す。</p> <p>▼日本語力の高い児童の発表を聞いてから発表できるようにする。</p>	

活動案：2年国語③ 「かんさつ名人になろう」②

関連する教科単元：生活「おおきなあれ わたしの やさい」他

1. 課題と目標

想定される課題

観察については1年時に学んでいるが、観察文に触れる機会が少ないため定着しづらい。このため話すことはできても相手に伝わるように伝えること、特に、文で表すことが困難な児童が見られる。

【本時の目標】

・「かんさつ名人になろう1」で学んだ言葉を使って、かんさつ文が書ける。

2. 指導のポイント・留意点

「○○の□□は～です。」を使ってかんさつ文が書けるようにする。

3. 使用可能な教材・ワークシート

・在籍学級で使用する観察カード

・話し言葉に引きずられて、だらだらとした文になる子どもがいます。短文レベルでよいので、主述の整った一文を書かせるようにしたいです。

・子どもが観察できるものを自分で選ぶと意欲的に活動できてよい(植物に限らず)

・在籍学級と同じ観察記録用紙を使うことで、書式に慣れることができます。クラスで勉強するときに、安心して学習に取り組むことができるので同じものを使うことをお勧めします。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
15分	1. 観察したいものを選んで、観察の視点に沿って観察文を書く。	<p>観察の視点を掲示しておく。</p> <p>観察するものは、色や大きさ、手触りなどが異なるものを選ぶ。</p> <p>▼うまく書き始められない場合、観察の視点を使って書くことを促す。それでも難しければ、前時と同じやりとりをして思い出させる。</p>	在籍学級で使用する観察記録
5分	<p>2. 書いたものを読み返し、確認する。</p> <p>・個人で読み返す、友達と交換して友だちの観察文を読むなど</p>	<p>△一人か二人、発表させてもよい。</p> <p>△と▼で書くときに必要な時間が大きく異なることが考えられる。△同士で交換して読ませる、▼は1文のみ書かせ他の視点は単語でもよいとするなど、対応を事前に考えておく必要がある。</p>	

活動案：2年国語④ 「スイミー」①

1. 課題と目標

想定される課題

本単元の学習課題を達成するためには比喩表現を正しく理解する必要がある。しかし、非母語話者児童は日本語の比喩表現に触れてきた経験が少ない。在籍学級で学習に参加するためには、この点について事前に学んでおく必要がある。

【本時の目標】

- ・比喩表現を知り、その意味を理解することで本文を読み取れるようにする

2. 指導のポイント・留意点

たとえているもの・たとえられているものを明確にする必要がある。

たとえるとき表現として、「～みたいに…」 「～ような…」を理解し、使えるようにしたい。

3. 使用可能な教材・ワークシート

動画：魚の群れ NHK for school 理科6年「海の生き物のつながり」1分05秒

魚の群れの揃った泳ぎ方と、パクッと魚が食べられるシーンが見られる。

http://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005401042_00000#in=0&out=65

この単元では、挿絵等も含め、視覚的な資料を多用して理解させた方が子どもたちも喜びます。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. 雲の写真などを見て比喻表現について知る。 T:何に見える? C1:くじら T:本当だ。クジラみたいな雲ですね。	ウェブ上にたくさん「～みたいな雲」の画像があるので適宜使用する。	画像
7分	2. 本文中から「みたい」「ような」が書いてある場所を見つけ、たとえたもの・たとえられたものとマッチングする。 「ブルドーザーみたいな伊勢エビ」 「ゼリーのようなくらげ」	「みたい」を先に確認し、「ような」も同じ使い方であることを示す	
8分	3. ○○のような××で文を作る	▼活動の展開 1 と同様、ウェブサイト等を利用して「○○のような××(・・・のような木、・・・のような野菜)を探して示し、日本語で表現させる。 △「○○のような××」の前件または後件だけを書いた文を提示し、文を作らせる(「花のような____/____のようないきもの」)。 △「○○のような××」の前件または後件だけを書いた文を提示し、文を作らせる(「花のような____/____のようないきもの」)。	写真や絵

活動案：2年国語⑤ 「スイミー」②

1. 課題と目標

想定される課題

「登場人物の気持ちを読み取る」活動では、在籍学級では本文に記述されている内容をもとに、登場人物の気持ちを推測する。したがって、そのように考えた根拠を述べることが求められるが、教師の発問「なぜそう思ったか」に適切にこたえることが難しい。自分の考えを伝える練習をさせておきたい。

【本時の目標】

- ・挿絵をもとに、主人公スイミーの気持ちを考えて発表する。また、そう考えた理由を話す。

2. 指導のポイント・留意点

- ・単語レベルではなく、「スイミーは、～と思います」「～だからです」といった表現で、自分の考えを伝えるように指導する。
- ・在籍の授業に先行して国語教科書の絵を使い、ストーリーを想像したり、知っていることを語り合ったりすることは比較的多く行われるが、その目的は子どもたちが本文を読むことを楽しみにするところにある。子どもが自由に語り、イメージを膨らませる場を設けることで、学習意欲を高めたい。

・子どもたちは、想像だけで言いがちなので、在籍学級の授業では「スイミーの気持ち」を考えた根拠を本文の中から示すことが必要です。

・先生の発話がモデルになるので、少し硬くなりますが、単語ではなく「スイミーはどんな気持ちだと思いますか」「スイミーは悲しいと思います」といったレベルで話したいです。それが在籍でのやり取りや、感想文につながっていくと思っています。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
10分	<p>1. 第一場面の挿絵を見て、スイミーの気持ちを考え、発表する。</p> <p>T:絵を見てください。真ん中に黒い魚がいます。この魚の名前はスイミーです。</p> <p>スイミーの周りに赤い魚がたくさんいます。</p> <p>スイミーはどんな気持ちだと思いますか。</p> <p>C:たのしい</p> <p>T:Cちゃんは、「スイミーは楽しいと思います」って言いたかったんだね。</p>	<p>子どもが自分から適切な表現「～と思います」で言えるように、繰り返し子どもの発話を言い換えていく。</p> <p>フルセンテンスで言えた子どもの発話はその言い方をほめるようにしたい。</p> <p>子どもの発話を捉えて、理由を言うように促す。</p> <p>▼「～からです」の表現にならなくてもよい。</p>	
9分	<p>2. 第2場面の挿絵を見て、絵からわかることやスイミーの置かれた状況やその気持ちについて発表する。</p>	<p>本時の活動は、スイミーの本文とは離れた子どもたちの自由な発想で構わない。</p> <p>スイミーの気持ちとそう考えた理由については本時の目標なので必ず言わせたい。</p> <p>子どもの発話の言いかえは引きつづき意識して行いたい。</p>	
1分	3. まとめ	<p>在籍では教科書本文を読んで考えていくことを伝える。</p>	

活動案：2年国語⑧ 「主語・述語」

1. 課題と目標

想定される課題

海外で生活する国際結婚家庭の子どもは、日常会話はできても、主語・述語の揃った日本語「文」に触れる機会は少ない。日本語の文構造について、明示的な指導の必要性が推測される。特に、現地語の語順・助詞の有無が日本語とは異なることも想定されるので、留意したい。

【本時の目標】

- ・文には主語と述語があることを知り、「主語」「述語」という単語になじむ。
- ・文中から主語・述語を見つけることができる。

2. 指導のポイント・留意点

本時で扱うものは、単文のみとする。

多くの例文に触れることで、理解を促す。

・この授業では、教師は、意識的に「誰が（は）／何が（は）」「どうする／どんなだ／なんだ」が最低一つずつ入っている「文」で正しく書いたり話したりする方がよいと思います。

・「なにがどうする」「だれがどんなだ」といった表現は普段耳にしないので、在籍学級で述語の分類をする場合は、例文を通して理解できるように工夫が必要です。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
10分	1. 文づくり カードを使って文づくりをする。	主語・述語のみからなる単文を10程度作り、カードに書いて主語・述語に切っておく(この際、主語・述語で色を変えておく)。	
3分	2. 主語・述語という言い方を知る。	色の違いに着目させ、主語・述語という言い方を伝える。	
7分	3. 例文を使って、主語と述語を探す。文の主語・述語を発表する。 例文1) 主語述語のみの単文 例文2) 修飾語等が入っている文	「この文の主語は～～です」「この文の述語は～～です」という表現で言わせることで、「主語」「述語」という表現に慣れさせる。 主語でも述語でもないものがあることは押さえておく。	

【文例】

- ・わたしは2年生です。
- ・花がさきました。
- ・学校はたのしいです。
- ・先生が走っています。
- ・日本はあつかったです。
- ・校長先生はやさしいです。
- ...
- ・わたしは6時に起きます。
- ・ドラえもんは未来から来たネコ型ロボットです、

活動案：2年国語⑦ 「大すきなものを教えたい」①

1. 課題と目標

想定される課題

文を書くことは日常生活の中で経験しているが、メモを書く経験は少ない。経験不足のため、メモと文との違いが分からず、どのように書いたらよいか分からないことが予想される。

【本時の目標】

- ・ メモと文の違いが分かる。
- ・ メモの書き方が理解できる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・ 好きな物と好きな理由が書いてある文を用意することで、「好きなもの」「理由」が必要だということに気づかせる。そのために、メモに必要な内容を書いた掲示用の言葉カードを活用して、意識付けさせる。
- ・ すぐ文で書くことができない児童に対しては、絵を描かせたりして支援する。

表現：わたしは〇〇がだいすきです。

- ・ 1年生の時に学習した「たからもののしょうかい」を想起させてください。その学習の延長上にある単元なので、そのときのたからもの話から「大すきなもの」にイメージを広げてほしいです。
- ・ 「大すきなもの」は物だけではありません。友達や家族などもあるでしょう。いろいろなその子なりの「たからもの」を出させたいです。そのため、あえてたからものに、「かぞく」をあげています。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「しょうかいメモを書こう。」	・1年生で学習した「たからものしょうかい」を想起させる。	できれば子どもたちが1年生のときに書いた宝物紹介の文を用意する。
14分	2. 「大すきなものを教えたい。」を読んでメモには何を書いたらよいか考えさせる。 ・すきなものにあたる文はどこか、すきな理由はどここの文か、話し合う。 ・どこの部分がすきな物と理由にあたるか、発表する。	・教師が例文を用意して児童にみせる。そして、初めに大すきなものを書く。次に好きな理由を書くことを理解させる。そのために、以下のような簡単な文を用意する。 ① すきなもの 私は、いもうとがだいすきです。 ②すきな理由 かわいいからです。 ・児童が発表した項目に合わせて、言葉のカードを貼ってメモ内容と一致しているか確認する。	教師が作成した例文 メモに必要な内容を書いた掲示用の言葉カード すきなもの すきなりゆう
5分	3. メモ項目に沿ってメモを書く。	・短冊にメモを書かせる。 ・メモが観点に合っているかを、確認させる。	メモ用の短冊

活動案：2年国語⑧ 「大すきなものを教えたい」②

1. 課題と目標

想定される課題

ルーツのある児童も日本の児童も友人同士の会話で、順序を意識して話す場面は、少ないと想定される。ここでは、内容に沿って順序を意識して、相手に伝わる文が書けるようにしたい。

【本時の目標】

- ・話す順序を考えて、相手に伝わる文章を書くことができる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・教師が提示する文は、短い単文にする。子どもにも同様の文の短冊を渡して、どのように並べれば内容が伝わるか、操作活動を通して考えさせてください。
- ・どんな順序で話せばよいかを短冊を入れ替える操作活動を通して考える。そのために、文は3文程度とし、構成をしやすくする。

表現：○○が好きなわけは～～～からです。

- ・子どもどうしが、聴き合ったり考えたりする時間を確保してほしいです。日語補習でも一問一答形式の授業ではなく、聴き合い学び合う授業が可能だと思います。主体的な学びはどこの国の児童にも必要なことだと思います。
- ・発表原稿は、子どもたちの書く字の大きさや丁寧さを考えて、マス目の大きさを設定すると、子どもたちも書きやすいと思います。

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「しょうかい文を書こう。」	・前時のメモをもとに発表原稿を書くことを伝える。	
5分	2. 話す順序を考えて、文を並び替える。 ・順序を考えて順不同にした、以下の文を並び替える。 *大好きなサッカーのことを発表します。 *サッカーが好きなわけは、ゲームするのが楽しいからです。 *毎週土曜日は、クラブチームで練習しています。	・左記の文カードを順不同に並べて提示する。 ・どんな順で文カードを並べ替えたらいいか考えさせる。 ・順序を変えた文を黒板に並べて、「①伝えたいこと／物」「②好きな理由」「③好きなことの詳しい説明」の順に書くことを、理解させる。	教師が作成した文カード
14分	3. 紹介文を書いて、発表する。	・紹介文をプリントに書いたら、近くの友達と聴き合う。 △ 友達の文のよい所を、相手に伝えられるように支援する。 「～が～だからよくわかりました。」 「～が～だから自分もつかってみたいです。」 などの話型を使って話させる。 ・敬体を使って話すことを確認する。	紹介文を書くプリント

活動案：2年国語⑨ 「お話のさくしゃになろう」

1. 課題と目標

想定される課題

日記文や手紙文を書くことは経験があるので、支援がなくても書けると予想できる。しかし、物語文では、段落を意識して順序良く書く力が要求される。そのため、先行学習で適切な支援を行うことが重要となってくる。

【本時の目標】

- ・ 物語の続きを考えて、文章を書くことができる。
- ・ つなぎ言葉を適切に使って、あらすじを展開することができる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・ 自分で物語を書くことは困難が予想されるので、既習した内容の主人公「スイミー」をモチーフにして、物語の続きを考えさせる。
- ・ すぐ文で書くことができない児童に対しては、絵を描かせたりして支援する。

語彙 時間が後になったつなぎ言葉 そのあと、それから
場所を表すつなぎ言葉：そこで

- ・ なかなか書くことがスタートできない子どもに対しては、話したり絵を描かせたりして、イメージを膨らませたりしてください。どんな子どもでも自分の頭の中にイメージされているのですが、言語化・文字化できないだけなのです。
- ・ 教師が自分の書かせたいようにひっぱるのではなく、子どものもてる力を引き出していくようなイメージ(糸をつむぐような感じ)を持って支援してほしいです。
- ・ お話ができたら製本して(簡単に)、学級で読み合えるようにすると楽しいと思います。読書活動にもつながります。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「お話のつづきを書こう。」	・スイミーのお話の続きを考えることを伝える。 ・スイミーの最後の場面絵を見せて、続きをかくことを意識させる。	スイミーの最後の場面の絵
分	2. スイミーがどこで何をしたのかを考えて短冊に書く。 例 台湾の海に行く。 兄弟がふえる。 短冊を黒板に貼る。	・自由に話し合い聴き合う中で、物語をふくらませる。 ・「スイミーは、○○で□□をしました。」という文型を使って話させる。 ▼イメージできない児童については絵を描かせて表現させてもよい。 △次の書く学習に自然に進めるように、書きたい児童には短冊を渡して書かせる。	短冊 絵を描く紙 海・山・空などの写真
9分	3. 短冊を並べ合って、物語の展開の広がりを聴き合う。	・短冊を見てどんなお話ができるかみんなで考える。 △ どんなお話になると思うと問いかけて続きを話させる。 ・つなぎ言葉を意識させて話させる。	デジカメ スマホ

活動案：2年国語⑩ 「しかけカードの作り方」

1. 授業の位置づけ（先行／復習など）：先行

2. 課題と目標

想定される課題

・日常会話の中で、日本語で手順を伝えるなどの経験はあまりしていないと思われる。日常では「～て、～て・・・」の形で伝えることが多く、接続語の使用機会は少ない。

【本時の目標】

- ・順序を示す接続語を使うと、聞き手にわかりやすく伝えることができるということを理解する。
- ・文を正しい順序に並べかえることができる。

3. 指導のポイント・留意点

- ・本時で取り上げる接続語は「まず、つぎに、それから、さいごに」の4つに絞る。
- ・「つぎに」「それから」はどちらが先でもよいことに注意する。

【本時に使用する例文案】

例文① まず、スイッチを入れます。つぎにパスワードを入れます。最後にクリックします。これでパソコンを使うことができます。

例文② まず、やさいをあらいます。つぎにやさいをきります。それからお皿にのせます。最後にドレッシングをかけます。これでサラダのできあがりです。

例文③ まず、おゆをいれます。それから3分待ちます。つぎにお湯を捨てます。最後にそーすをいれて混ぜます。これで焼きそばのできあがりです。

この授業のターゲットは接続語なので、例文を作る時、接続語以外の部分の日本語が難しくならないように注意しましょう。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
3分	1. 導入として、カップラーメンの作り方を子どもが話す。 T: カップラーメン、どうやって食べますか	本時の目的が手順の説明であることを確認する。 この段階では「～て～て」の文でもかまわない。	
10分	2. 文の操作活動 個人またはペアで短冊の並べ替えを行う。	例文①～③を1文ずつ短冊に書いておく。 順序を表す接続語は文字の色を変えるなどわかりやすくしておく。 この段階では、接続語の注目する必要はない(子どもの経験から順序はわかるはず)	文づくりのための短冊
4分	3. 気づいたことを話す 並べかえた文を見て、接続語の位置(順序)を確認する。	以下の点に気づけるようにする。 ・「まず」「さいごに」の位置は固定であること ・「つぎに」「それから」の順序はどちらでもよいこと	
3分	4. 接続語の使い方を確認する。	適切な接続語を空欄に入れる	ワークシート

【ワークシート文例】

どんぐりごまをつくりましょう。

_____ どんぐりをひろいます。

_____ どんぐりにあなをあけます。

_____ ようじをさします。

これでどんぐりごまのできあがりです。

活動案：2年国語⑩ 「スーホの白い馬」①

1. 課題と目標

想定される課題

物語の舞台となる場所・時代・楽器等の予備知識がないと、物語の内容が十分理解できないと思われるので、先行で物語に入る前にして学習したい。

【本時の目標】

- ・ スーホの育った場所や馬頭琴に興味関心を持つことができる。

3. 指導のポイント・留意点

- ・ 滞在国・モンゴル・日本の位置関係や、モンゴルでくらす人達の生活がイメージできるように先行学習を行う。
- ・ 世界地図を用意して位置関係を理解させる。
- ・ モンゴルでの生活が理解できる動画を活用する。
- ・ 馬頭琴については動画で演奏を聴かせる。

4. 使用可能な教材・ワークシート

- ・ 馬頭琴の演奏は You tube
- ・ NHK クリエイティブライブラリー素材

- ・ 馬頭琴の演奏は、動画で見せればよいというものではありません。子どもちのイメージが広がるような、モンゴルの草原で弾いている動画を活用してください。Youtubeにあるので、それをうまく活用してほしいです。
- ・ 馬頭琴は、楽器の頭の馬の部分を大きく映した写真を用意するといいでしょう。
- ・ 地球儀や地図をうまく活用して、見渡す限り一面の草原のモンゴルを想像させてください。それが、競馬のシーンや白馬が走って走ってスーホの家に帰ってきたときの心情理解につながります。
- ・ 低学年なりに自分の考えを分かりやすく伝えて、聴き合うための学習習慣を身につけさせたいです。聴き合う活動をしやすい展開にしてあるので、3の活動で聴き合い、自分と異なる考えや感想に触れさせてほしいです。

展開（指導上の留意点：△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導）

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「モンゴルはどんな国でしょう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する内容の舞台がモンゴルであることを知らせる。 ・モンゴルの位置と暮らしについて自分のいる台湾と比べながら学習していくことを知らせる。 	世界地図（大きい）国名が書いてあるもの
2分	2. 滞在国・モンゴル・日本の位置関係を知る。 地図にシールを貼って位置を確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の「中国のきたモンゴル」の意味が理解させるためにシールを貼ることで位置を確認させる。 	シール
10分	3. モンゴルの人たちの暮らしや馬頭琴の演奏などを見聞きして感じたことを聴き合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・2分くらいの動画を見せて、お互いに感じたことを話させる。 ・草原・羊・ゲルなどが写っている動画を活用する。 	動画素材の活用
7分	4. 学習して初めて知ったことや馬頭琴の音色を聴いて感じたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き合って感じたことを書かせる。 △聴き合う中で自分の感じたことが深まったら「～さんの考えを聴いて～だと思いました。」等の文型を使ってふりかえりがかけるように支援する。 ▼モデル文「～だから～だと思いました。」を提示して書かせる。 ・時間があれば一人ずつ発表させる。 	

活動案：2年国語⑫ 「スーホの白い馬」②

1. 課題と目標

想定される課題

音読は堪能だが、叙述に沿って読み、心情を理解するための読解方法が十分身につけていないと予想されるので、先行で読み取り方を学習させることが必要と思われる。

【本時の目標】

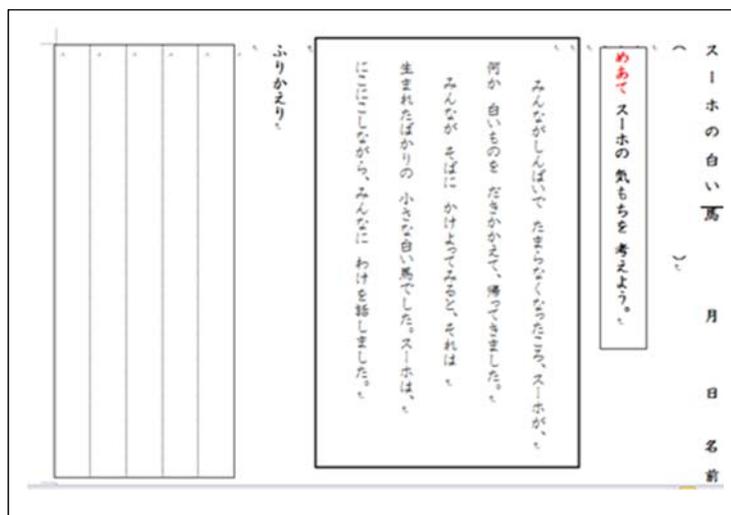
- 登場人物の行動や様子から気持ちを読み取ることができる。

2. 指導のポイント・留意点

- 登場人物の気持ちを読み取るための方法を理解させるために、例文を使って行動や様子から、主人公の気持ちを読み取らせる。
- 行動や様子から気持ちを読み取るために、叙述にそって主語や様子を表す言葉に着目させる。
- 気持ちを想像させるのに重要な複合動詞「だきかかえる」などは、動物のぬいぐるみ等を使用して動作化させる。

3. 使用可能な教材・ワークシート

- ワークシートの例参照



- 動作化することで言葉と行為が、一致します。そこから、一気にその行動の意味や登場人物の気持ちを理解します。どこで入れるかが、教師の出どころです。タイミングよく活用することで、子どもの学びが深まります。日本の子どもでも使うことで、より深い読みをする子どももいます。
- 「読む」練習のための場面として、分かりやすい3場面を使いました。他の場面でも先生方の経験で変えてもらって結構です。

4. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「スーホの気持ちを考えよう。」	・スーホの行動や様子から気持ちを考えていくことを知らせる。	三つの文章を拡大コピーしたもの(教師用)
15分	2. 「スーホが」「スーホは」という主語に着目して、スーホの行動や様子から、気持ちを想像して話し合う。 ・ 気持ちの分かるところに、線を引く。 ・ 線を引いたところからどんな気持ち分かるか、ペアで聴き合う。 ・ 全員で、スーホの気持ちについて聴き合う。	・児童がどの文のどんな言葉からどのように想像したのか、「～だから～だと思いました。」という話型を使って、話し合わせる。 ・気持ちを考える際に根拠となる言葉や行動に、線を引かせる。そのためには、主語や述語に着目させる。 特に「だきかかえて」「にこにこしながら」等に着目させる。 ▼気持ちを考える根拠となる言葉が分からない児童に「にこにこしながら」を例に挙げ、にこにこする時はどんな時?等個別に問いかけをする。 ▼ 「だきかかえて」などの表現は具体物を使用して動作化させて、スーホが白い子馬を大事に思っていることを感じさせる。	文章を書いたプリント(児童用)
4分	3. スーホの気持ちについてまとめる。 ・ 「～だから～だと思います/ます。」の文型を活用して、自分の理解したことを書く。	・ 2の学習活動で聴き合って、自分が感じたことを書く。 △聴き合う中で自分の感じたことが深まったら「～さんの考えを聴いて～だと思いました。」等の文型を使ってふりかえりがかけるように支援する。 ▼モデル文「～だから～だと思います/ました。」を提示して書かせる。 ・ 在籍学級の授業でも、この時間に学習したように、主語と様子を表す言葉に着目して読んでいくことを知らせる。	